

2017（平成 29）年度
東京電機大学
自己点検・評価報告

～平成 29 年度大学認証評価受審に基づく自己点検・評価～

【目次】

1. はじめに	P 3
2. 2016（平成 28）年度大学認証評価結果 努力課題への対応について（平成 30 年 3 月 31 日時点）	P 4
3. 2016（平成 28）年度大学認証評価 大学分科会報告書又は大学評価結果の概評による指摘事項への対応について（平成 30 年 3 月 31 日時点）	P 5
4. 各部局における「点検・評価 改善すべき事項」「発展方策 改善すべき事項」への対応（平成 30 年 3 月 31 日時点）	P 11
・教育研究組織	
・教員・教員組織	
・教育内容・方法・成果	
(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
(2) 教育課程・教育内容	
(3) 教育方法	
(4) 成果	
・学生の受け入れ	
・学生支援	
・教育研究等環境	
・社会連携・社会貢献	
・管理運営・財務	
(1) 管理運営	
(2) 財務	
・内部質保証	
・平成 29 年新設・システムデザイン工学部	
5. おわりに	P 58

1. はじめに

東京電機大学は、2016（平成 28）年度より、安田浩新学長のもと、新たなガバナンス体制を構築し、当該ガバナンスに係る責任体制の明確化と迅速化を図りつつ、1907（明治 40）年の学園創設以来の「技術で社会に貢献する人材の育成」の使命と、建学の精神、教育・研究理念のもと、毎年度の自己点検・評価活動に取り組んでいる。

「超スマート社会（Society5.0）」の実現に向けた AI や IoT、ビッグデータの活用等による技術革新が進展するなか、社会環境の変化に適応し輝き続ける東京電機大学を実現すべく、2017（平成 29）年 4 月には全学的改編として、システムデザイン工学部（情報システム工学科、デザイン工学科）の新設、工学部に新学科（電子システム工学科、応用化学科、先端機械工学科）を設置、未来科学部の入学定員の見直し（建築学科定員増）等が実施される等、時代を超えて輝き続ける東京電機大学の実現へ向けて、本学の特色ある取り組みが推進された。

さて、本学は、2016（平成 28）年度において、（公財）大学基準協会による第 2 期大学認証評価を受審し、その結果 7 年間の適合認定（2017（平成 29）年 4 月 1 日～2024（平成 36）年 3 月 31 日）を取得した。

大学認証評価結果においては、2009（平成 21）年度に受審した第 1 期大学認証評価以降の本学の取り組みは基本的に前向きに評価されたものの、一部検討課題が残った。

この評価結果を真摯に受け止め、新たなガバナンス体制における PDCA サイクルを速やかに検討・構築し、各施策の実現に向けて、引き続き、鋭意進展させていく所存である。

上記の状況を踏まえ、2016（平成 28）年度東京電機大学自己点検・評価報告書では、2016（平成 28）年度の東京電機大学自己点検・評価報告書における点検・評価項目（「大学認証評価結果における努力課題への対応」「第 43 群大学分科会報告書にて指摘のあった事項」「各部局で掲げている改善すべき事項」）を継続しながら、第 2 期大学認証評価結果及び自己点検・評価活動の実質化に焦点を絞り、その改善状況の点検・評価を行った。

本報告書である 2017（平成 29）年度東京電機大学自己点検・評価報告書は、これまでの 2 年間（2015（平成 27）年度～2016（平成 28）年度）の東京電機大学における自己点検・評価により明らかとなった課題等への取り組み状況、その結果としての効果が上がっている事項、解決した事項や新たな課題等に重点を置いた構成により作成した。

なお、大学認証評価制度においては、2018（平成 30）年度より実施される第 3 期認証評価（2018（平成 30）年度～2024（平成 36）年度）に伴い、第 3 期認証評価システムの改正に伴う変更点が公表され、大学等の質的転換や内部質保証の確立状況を重視した評価制度に転換されている。

本学においても、この第 3 期認証評価の受審を見据え、新たに設定された重点評価項目「内部質保証」を中心に、更なる質の向上を目指していきたい。